

トホクのトウモロコシ栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃

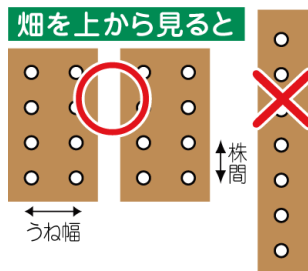
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；少ない

1. 作物特性

ホワイト系のトウモロコシの近くにイエローやバイカラー品種が栽培されていると、白い部分の中に黄色の粒が混じった状態になります。このように近くに他の品種がないことを確認し、色々と種類を栽培するときはなるべく離しておく必要があります。その他にはアワノメイガの発生と鳥による食害が栽培上の注意点です。

2. 畑の準備

お互いの花粉が充分かき合えるよう、畑は細長くするのではなくてかためるように考えましょう。



トウモロコシは地面の温度が低い春先にタネをまくと発芽不良を起こすことが良くあります。温度が不足すると発芽まで時間がかかり、その間に土の中に潜む腐敗菌によって病気に侵され発芽後に立ち枯れることが原因です。発芽適温となるようタネまき時期を考え、マルチなどをして地温を確保します。

3. タネまき

1cmの深さに1ヶ所3～4粒タネをまき、土をかけて軽く鎮圧します。発芽して本葉3～4枚になったら、生育のよい株を残して1本に



間引きます。間引きはハサミで地際部あたりを切り取ります。

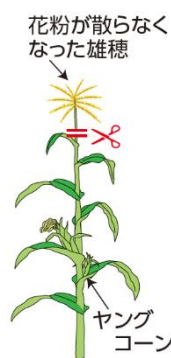
4. 栽培管理・収穫

草丈40～50cm、葉数6～8枚の頃1回目の追肥をします。1㎡あたり化成肥料を40g施し、この時うね間を軽く耕し、マルチをしていない場合は株元に土寄せを行います。



生育するにつれて株元から小さな枝（分げつ）が発生してきます。分げつは根の量を増やし、実を大きくする働きがあります。除去する必要はありません。

2回目の追肥は雄穂が出てきた頃、1㎡当たり化成肥料を40g施します。この頃から農薬などを適切に使ってアワノメイガを防除します。



花粉が散らなくなった雄穂は切り取ります。一番先に咲いた上から1番目の雌穂の他に咲いた雌穂を取り除く必要はありません。ただし、ヤングコーンを収穫したい場合はそれぞれの絹糸が出てから1～2週間以内に葉を傷つけないよう慎重に収穫します。雌穂が肥大を始めるこの頃に、鳥や野獣による食害対策をしておきます。

5. 収穫

収穫適期は受粉後20～25日後くらいで、絹糸が褐変した頃です。雌穂の先端の皮をむいて粒の色や大きさを確認すると良いでしょう。収穫が早すぎると糖度がのらずに甘みが足りません。一方、とり遅れると粒のしなびや糖度が低下しますので注意しましょう。

●栽培例

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地					●	●	●	●	●	●	●	●
中間地				●	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●